

パキスタンの南部に位置する
シンド州は、代表的な都市であるカラチが大きな商業都市として知られている。そのカラチから北へ160キロ進んだところにシンド州第2の都市ハイダラバードがあり、そこからさらに15キロの場所に「教育の都市」と呼ばれるジャムシヨロがある。

ジャムシヨロには大学が3校あり、今回のプロジェクトの対象であるリアカット大学付属病院もここに位置している。本プロジェクトは、リアカット大学付属病院の母子保健病院を拡充することを目的としており、母子保健センター棟（延べ床面積6000平方㍍、3階建て）の建設と医療機器を提供する。

シンド州母子保健医療施設拡充計画

飛島建設

ヨロは夏場の外気温が40度を超える日も珍しくない。これに対応するため、断熱性と通風性に優れた建築設計を採用した。屋上には換気スペースを兼ねた断熱用の鉄骨屋根空間を設け、地下ピットの冷気を取り込み、熱気は換気用トップライトから排



病院棟南西外観

◆パキスタン
海外建設協会
プロジェクト便り

■気候に配慮した建築設計
シンド州は高温な上、乾燥した気候で、特に内陸のジャムシヨロは夏場の外気温が40度を超える日も珍しくない。これに対応するため、断熱性と通風性に優れた建築設計を採用した。屋上には換気スペースを兼ねた断熱用の鉄骨屋根空間を設け、地下ピットの冷気を取り込み、熱気は換気用トップライトから排

出する計画とした。
外観デザインは現地の建築様式や色彩に調和するものを採用し、地域住民に親しみやすい施設づくりを意識して設計された。また、外壁や待合スペースなどは積み木をイメージしたデザインとし、子どももが喜ぶ空間となっている。

ハイダラバードやジャムシヨロ周辺地域では、インダス川の水をくみ上げ、浄水場を経由して市水として供給されている。しかし、浄水施設が不完全なため、浄水には川の土が含まれ、白く濁つたものとなっていた。そのため、本プロジェクトでは、日量50㌧を浄化できる砂ろ過システムの浄水槽を設置した。これにより、濁りのない水が供給されることになった。

■厳しい条件下でも要請に応える
このプロジェクトは、202

母と子の命救う施設

病棟内部の手術室



地域住民から親しまれるデザインに

1年7月から25年6月までの48ヶ月間で実施され、そのうち建築工事は23年7月から25年6月までの24ヶ月間、飛島建設が請負、施工した。

飛島建設は、1975年に香港をはじめ東南アジア各地に駐在員事務所を設置し、本格的に海外活動を開始した。その後、77年にパキスタンへ進出し、イスラマバードにおいて中央電気通信研究所を建設した。このア

相手国政府は、このことから一刻も早い着工と竣工を要望していた。しかし、建設予定地は力盤が岩盤であったため、ジャムシヨロはアントブレーカーによる掘削を強いられ、基礎や整地に時間と費用がかかることが予想された。また、ジャムシヨロは猛暑地であるため、日中は3時間の休憩で暑さをしのぎ、夜間作業を行わざるを得ない状況であった。

■医療アクセスの改善に大きく貢献
このプロジェクトは、2025年に開院式が行われ、・菊池孝守（建築本部建築FSC施工G）

プロジェクトは日本とパキスタンの技術協力の象徴的な事例となり、以降の多くの政府開発援助（ODA）プロジェクトのモデルとなつた。今回の病院プロジェクトは既存病院の増築であり、既存病院には多くの入院患者や外来患者が診察に訪れていた。ここ数年が着工前年にジャムシヨロ周辺の世界的な異常気象による大雨でも発生。着工時に周辺の医療機関が閉鎖されたことで患者が集中し、施設のキャパシティを超えた状況となつていた。

相手国政府は、このことから一刻も早い着工と竣工を要望していた。しかし、建設予定地は力盤が岩盤であったため、ジャムシヨロはアントブレーカーによる掘削を強いられ、基礎や整地に時間と費用がかかることが予想された。また、ジャムシヨロは猛暑地であるため、日中は3時間の休憩で暑さをしのぎ、夜間作業を行わざるを得ない状況であった。

■医療アクセスの改善に大きく貢献
このプロジェクトは、2025年に開院式が行われ、・菊池孝守（建築本部建築FSC施工G）

パキスタンからはシンド州首相、保健大臣ら、日本からは在

パキスタン日本大使、国際協力機構（JICA）パキスタン事務所長が出席された。日本側

は、この施設の完成により、ハイダラバードとその周辺地域の医療水準が向上し、より多くの母親と子どもの命が救われる」とが期待されていると表明。また、このセンターが持続可能な形で長く活用され、将来の世代にわたって地域の母子保健に貢献することを熱望するとの思いも示された。

パキスタン側は、本プロジェクトが地域の人々にとって非常に重要な施設であり、医療アクセスの改善に大きく貢献するとし、日本からの支援とこれまでの継続した支援へ謝辞を述べた。そして、今後の医療の質を向上させること、特に子どもたちの健康を守ることを重要課題として、医療分野でのさらなる発展を目指していくことを表明した。